

防災教育の一環としての防災カードの配布・記入指導について

文責：人文社会科学部教授：寺村泰

2012年9月

◎「静岡大学地震防災カード」配布の目的

1. カードを配布し、必要事項を記入させることにより、住居の標高、避難場所を確認させて特に津波に対する防災意識を高める。

2. 財布等で常時携帯することにより災害時に氏名など情報が速やかに伝達可能となる。

*すなわち、ただ配布するだけでは効果が十分ではありません。記入および携帯について指導することによってより有効に防災意識を高めて、発災時の迅速な避難や手当につなげることができます。

◎指導のあらまし（あくまで一例です。各自創意工夫で補ってください）

1. 地震について

「大規模地震はいずれ必ず起きます。」

「現在、心配されているのは、東海地震単独ではなく、東南海地震、南海地震との3連動の巨大地震です」
等

2. 津波について

「大規模地震の場合は、静岡、浜松沿岸にも津波が押し寄せます。」

「最大で10メートルを超える津波が静岡市駿河区の海岸に到達することが予測されています。」¹

「静岡大学理学部の研究で、2011年に静岡平野のボーリング調査をしたところ、過去に静岡平野内部にも津波が押し寄せていたことが判明しました。」²

「津波は、高台に逃げれば助かります。逃げなければ高い確率で死に至ります。これが、東日本大震災の教訓です。」

3. 地震防災カードを配布して

①「静岡大学の静岡キャンパスは、標高が正門で25メートルあります。校舎はさらに高いところにあるの

¹ 2011年3月31日、内閣府、有識者検討会発表。

² 北村晃寿他「静岡県静岡平野東南部における完新統のボーリングコアによる遡上した津波堆積物の調査（速報）」『静岡大学地球科学研究報告』 No.38 別冊、2011年10月

で、学内にいるときに大規模地震が起きた場合、津波の心配は要りません。」「浜松キャンパスの標高は、35メートルあります。」「学内で地震が起きた場合は、落下物などに注意して指定避難場所に避難して下さい。」

②「睡眠時間を含めると、1日のうちで自宅もしくはアパート、寮にいる時間が実は一番長いといえます。」

「まず、自分の住居の標高を確かめてみましょう。」

「帰宅したらインターネットで「静岡県防災GIS」と入力して「静岡県防災GIS情報閲覧ページ」を開いて地図を動かして自分の住居の標高を確認して下さい。」

「その標高を、防災カードに書き込みましょう。」

「次に、自宅・アパートなどにいるときの避難場所を決めてください。」

「近所を歩いて確認してみましょう」「住居が、10メートルより低い場所に住んでいる人は、津波から緊急に避難できる高台もしくは避難できるビルが近所にあるかどうか確認しましょう」「ビルがあっても入れるとはかぎりません」

「避難場所をカードに書き込みましょう」

「以上の標高と避難場所については、宿題にしますので次回確認します。」

③「その他の項目も記入して下さい。」

「薄いカードなので、財布などに入れておいて常時携行するようにして下さい。」

*「血液型」項目は記入しなくて結構です。輸血が必要な場合は必ず血液型検査がおこなわれます。

◎最後に

「最終的に自分の身を守るのは自分です。」

「静岡の場合は、津波が5分程度で到達すると言われていています。大規模な地震だと思ったら、すぐに避難です。」

「着替えてはいけません。化粧してもいけません。寒い場合は、手近な最も厚手のものをサッとはおってそのまま避難して下さい。」

「安全を確認してから住居に帰ってください。」「津波は何波もきます。」「2回目。3回目の方が大きいこともよくあります。」

*以上、よろしくご指導願います。